

女性目線のデザイン目指し 創業支援室で起業



パソコン一台で起業したが将来的には事業規模拡大を目指している。

KITA DESIGN (キタ デザイン)

大手デザイン会社勤務の経験を生かし、昨年念願の独立創業。一児の母として仕事と子育てを両立させながら、将来の法人化や事業拡大を目指して、創業支援室入居や諸制度の積極利用で創業期の足場固めを行う。女性グラフィックデザイナーとして特に同性を対象にした制作物で同業他社との差別化を図っていききたい。

KITA DESIGN (キタ デザイン)

〒010-0951

秋田市山王3-1-1

県庁第二庁舎3F A-3

Tel. & Fax.018-893-5650

E-mail kita-d@plum.ocn.ne.jp

創業支援室で個人事務所を起業

県内大手デザイン会社で働いていた北林由貴子さんは、勤続10年を節目にして昨年1月に独立、個人でデザイン事務所「KITA DESIGN」を起業した。将来的にはスタッフを補充して法人化を目指すなど事業拡大の青写真を描いているが、着実堅実な事業の立ち上げのために、あきた企業活性化センターのアドバイスのもと、創業時より秋田県庁第二庁舎の創業支援室に入居した。

創業支援室入居のメリットとしては、様々な付帯的なサポートを利用できることがあげられる。

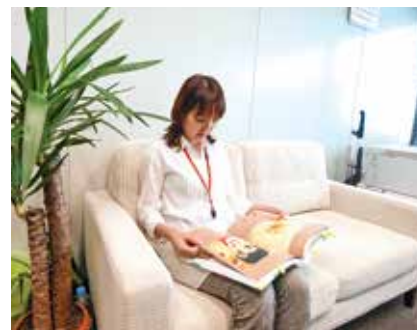
「スタッフ補充を考えていたときも、同じ建物の中にある企業活性化センターの方に相談するとすぐに人件費の助成金に関する資料を用

意していただきました。とても助かっています」(北林さん)

女性目線の仕事に力を入れたい

以前の職場では定期刊行物のエディトリアルデザイン(編集に関わるデザイン)を長年手がけていたので、いずれは自分の手で雑誌を作りたいという思いも強い。その他にもパンフレット類やホームページデザインなど守備範囲は広い。

「どのような制作物であっても、女性を対象にしたものの依頼があると自分でもワクワクします」と北林さん自身が言うように、女性目線の仕事を手がけることを心得ている。デザインの世界もまだまだ“男性社会”的な面があり、その意味では、女性目線にこだわるKITA DESIGNはニッチな存在と言えるかもしれない。今は、「デザイナーズ・ウエディング」と称してデザイナーが一組のカップルの為に結婚式の印刷物をオリジナルデザインする仕事も手がけているという。



今は自分一人のデザイン事務所だがスタッフはすぐにも補充したいと考えている。(写真上)
特に女性をターゲットにした制作物に関心があり、勉強もしている。(写真中)
家賃や光熱費の安い創業支援室で創業期の力をつけ、将来の法人化を目指す。(写真右)



創業支援室は事業飛躍のステップ

創業支援室の入居は原則1年期限。その後希望があれば審査を経て最長3年間留まれる。

「秋田は昔からおいしい食べ物やお酒などがありますが、地元では当たり前すぎて真価に気づいていな

い一面もあります。そういうものに光を当てて全国に紹介するような仕事もやっていきたいと思っています」(北林さん)

北林さんにとって創業支援室は、事業を飛躍させるための“滑走路”のようなものなのかもしれない。



前の職場時代のものを含む制作実績の一例。
エディトリアルデザインも得意分野。